

使命感を持って地域の「災害医療」を担う

三宮市長 貴院には、災害拠点病院として災害時の初期救急体制の充実強化の要としてもご活躍いただいております。災害が多い昨今、災害時の医療体制や地域との連携に関する取組みがあればお聞かせください。

佐藤病院長 災害拠点病院に求められる主な医療機能には、災害時の怪我人への対応や、病気が重症化するリスクのある患者さんの多数受け入れ、重症患者の移送などがあります。これらに加え、災害派遣とし

てDMATの派遣などの機能を備えることも、重要な役割です。今述べたとおり、災害拠点病院は、自院の病院機能を維持しながら、外部の状況にも対応するという多岐にわたる機能を求められます。災害時の対応にも万全を期するため、日頃からト

レーニングの実施やマニュアルの改訂などを行い、整備を進めています。最近ですと、大規模災害時に多数傷病者の受け入れが必要となった場合の対応方法を検討するため、令和5年度から消防の方々にも加わっていただき、より実際の災害時の連携などを意識した対応フローの検討を重ねています。

このように、当院では随時災害対策マニュアルのリニューアルを行い、さらにコロナ禍で全国の病院でもなかなかできていない「**多数傷病者受け入れ訓練**」を実施するなど、病院全体で災害医療体制の整備を行っています。また、訓練においては当院だけではなく、県などの行政や消防と合同で行い、災害時の連携を図ることも重視しています。今後は自衛隊とも協力し、さらに災害拠点病院としての機能充実を図っていく予定ですの

で、ご協力をお願いします。
三宮市長 災害対応への使命感ある取組みに感銘を受けます。市としてもぜひ協力体制を築いていきたいと考えます。

市と連携し、患者さんのサポート体制を整えていく

貴院には、1月に発生した能登半島地震の際にも、いち早くDMATを派遣していただきましたが、実際のお話をぜひお聞かせください。派遣のスケジュール等はどうか。

佐藤病院長 能登半島地震の際は、1月10日に県からDMAT派遣要請が届き、1月11日



に出発しました。チームは医師1人、看護師2人、事務1人、栄養士1人の計5人により構成されており、1週間程活動しました。同時期に看護協会から災害支援ナースの派遣依頼があったため、こちらへも看護師1人を派遣しました。

三宮市長 被災地派遣においては、派遣者へのメンタルケアも重要と言われます。当市からも被災地への職員派遣を行いましたので、派遣後の職員のメンタルヘルスには特に配慮しました。貴院ではいかがでしたでしょうか。

佐藤病院長 私がメンタルケアの重要性を感じたのは、東日本大震災の時です。当時、私は相

模原の大学病院に勤務しておりましたが、被災地に派遣されたDMATが病院へ帰ってきた際、精神的に疲労しているのを感じました。
今回の派遣に際しては、最初から精神面のサポートをするため、必ず毎日DMATからの状況報告を受けることとし、同時に精神科医にもメール等でチームの状況を確認してもらう体制をとりました。また、帰還後には個別に面接を実施し、本人たちには色々なことを語ってもらう場を設けました。こうしたサポートが功を奏してか、幸い災害支援にあたったDMATチームが精神面で体調を崩すことはなかったようです。

市と医療機関の連携が地域医療をつくる

三宮市長 当市では、令和4年に貴院と包括連携協定を締結し、貴院との連携、地域に根差した医療機関としての連携を進めさせていただいております。その中でも、子育てに関する施策について、触れさせていただければと思います。

当市においても課題となつて

安心して暮らせるまちを目指して

三宮市長 貴院には、感染症対応や救急対応、子育てなど、多岐にわたるご協力をいただいております。私個人としても、市民の日常生活における「安心」には、医療の充実が大きな要素であると感じています。

今後貴院の発展をお祈りするとともに、市民の皆様が暮らしやすいまちづくりを進めるため、引き続きご協力をお願いいたします。本日は誠にありがとうございました。うございました。

佐藤病院長 この度は貴重な機会をありがとうございました。



医療の充実が市民の「安心」の大きな要素

いる少子高齢化・出産数の減少ですが、この状況のなか、子育てに困難を抱えている方が増えておられます。特に出産後は生活や心身の変化が非常に大きく、育児を肯定的にとらえることが難しい状況があります。

市としてこの状況をサポートすべく、出産直後に心身を休めながら育児に向き合っているような体制作りとして、「産後ケア事業」を実施しています。

日中支援をするデイサービス型に加え、令和5年度からは医療機関に依頼する宿泊型の産後ケアも開始し、貴院にもご協力をいただいております。

佐藤病院長 おっしゃる通り、

子どもを安心して産み、そして育てていくことができる環境づくりは地域として重要なことであり、その中で我々医療機関ができることは、充実した周産期医療の提供だと考えています。

市から宿泊型産後ケア事業のお話をいただいた後、産科を中心に話し合いを重ね、事業の実施体制を整えてきました。この事業により、産後のお母さんが休息し、色々な悩みを相談できる場を整えることで、育児の不安の解消につなげていきたいと思っています。

今後市と連携し、体制を整えて、産後のお母さんたちの受け入れを進めていきます。

三宮市長 産後ケア事業を利用した皆さんに、利用後アンケートへの協力をお願いしていますが、病院に対する満足度は大変高いようです。

佐藤病院長 育児で疲れている方にとって、ご自身の休養が取れる環境を提供できたことが良かったようです。心身の疲れを取り、育児相談もできる当院の体制に満足いただきました。食事についても、産科一般食の他、ドリーム食という少し豪華な食事を選択することができます。休養しながら美味しい食事を召し上がることも、心身の元気づながる要素かと思っています。

三宮市長 ご尽力に感謝いたします。今後はデイサービス型の産後ケア事業についても拡充していきたいと考えております。
佐藤病院長 当院も体制整備を進め、受け入れられるよう調整を重ねていきます。

三宮市長 家庭の核家族化が進み、地域のつながりも希薄になる中で、孤独感や不安感を抱える妊婦・子育て世帯も少なくあ